



炉端の会
2018.07

「炉端の会」のひとり言-1

◇5月19日～6月3日、土日に「船越の舞台」が公開されました。

日本民家園の一番奥に移築された「船越の舞台」は通常、正面のシャッターが1か所だけ開けられ、そこから内部を見るだけですが、毎年、春と秋の土曜・日曜に各6日ずつ内部の公開を行っています。今年の春の公開は5月19日(土)～6月3日(日)の土日に実施されました。

公開では花道横にある出入口から舞台内部に上がって頂き、「炉端の会」会員による、舞台の諸設備について説明を聞きながら、内部の見学をして頂きました。公開期間中は連日、100名以上の方が見学に来られ大変に盛況でした。



(「炉端の会」会員が舞台設備などの説明を行っている様子)

◇5月27日、「船越の舞台」の移築前の現地を訪れました。

「炉端の会」会員が民家園へ移築される前に建っていた三重県志摩半島先端にある大王町の船越神社付近の場所を訪ねました。

舞台のあった場所は、移築後、保育所となり、5年前に解体されて更地になっていました。地域の催し場所として利用されている様です。



(船越神社の鳥居付近)



(「船越の舞台」のあったと思われる更地)



炉端の会
2018.07

「炉端の会」のひとり言-2

◇5月31日、研修旅行の下見が行われました。(研修旅行実行委員会)

「炉端の会」では毎年、研修旅行を行っていますが、今年は九十九里町から移築された作田家のあった場所の周辺と房総の村に移築されている古民家を見学する事になりました。

研修旅行を実施するにあたって、研修旅行実行委員会による下見が5月31日に行われました。

下見は、登戸→作田家在所→伊能忠敬記念公園→イワシ資料館→サンライズ九十九里(昼食場所)→房総の村→登戸 のコースで行われ、見学場所や昼食場所の確認、房総の村でのガイド依頼等を行いました。

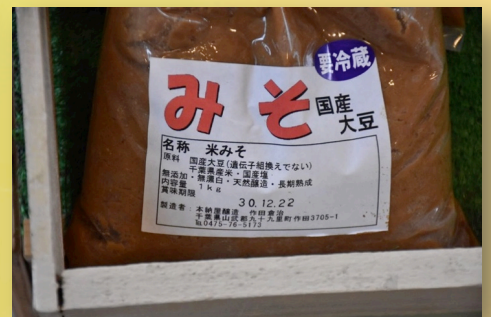
イワシ資料館では水槽一杯のイワシが出迎えてくれました。

また、昼食場所であるサンライズ九十九里の売店では作田さんのお宅で製造されたお味噌も扱っていました。

房総の村では、移築された重文の御子神家住宅と県文化財の旧平野家住宅を見学後、房総の村を自由見学する事にしました。



(イワシ資料館の水槽いっぱいのイワシ)

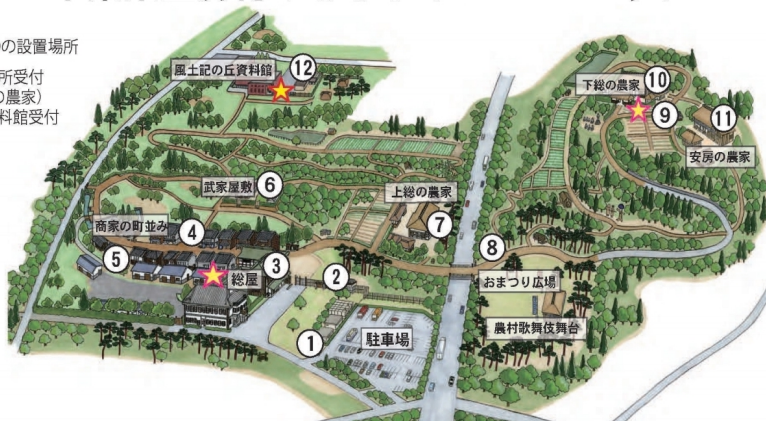


(作田さんのお味噌)

千葉県立房総のむらトイレ・AEDマップ

☆印は館内AEDの設置場所

- ・総屋総合案内所受付
- ・機小屋(下総の農家)
- ・風土記の丘資料館受付



(旧御子神家(国重要文化財))



(旧平野家(県指定有形文化財))



炉端の会
2018.07

「炉端の会」のひとり言-3

◇5月31日、「13期会」催し、「世田谷代官屋敷周辺の散策」

5月31日、13期会(参加者:11名)は世田谷区にある松陰神社-勝国寺-円光寺-大吉寺-世田谷代官屋敷・世田谷区立郷土資料館-世田谷城址公園-豪徳寺-世田谷八幡宮を訪ねました。

松陰神社には、安政の大獄でこの世を去った吉田松陰が、高杉晋作や伊藤博文らによって、千住の回向院から改葬されており、今も墓所には花が絶えないそうです。

代官屋敷(国重文)は、江戸中期世田谷領を治めた代官、大場家の私宅・大場代官屋敷です。大きな門そして、立派な屋敷は大変広く、一部二階座敷もありました。20分程説明をしていただき見学しました。

豪徳寺は彦根藩の基盤を固めた井伊家二代直孝や日本の開国に尽くした大老・井伊直弼の菩提寺で、招き猫たちが佇む穏やかなお寺でした。

ちなみに、豪徳寺の三重の塔には干支の彫り物がありますがネズミの個所にはネコが彫られていました。

さすが、招き猫発祥のお寺ですネ…。



(松陰神社)



(代官屋敷)



(郷土資料館)



(代官屋敷内)



(豪徳寺、三重塔のネコの絵と彫り物)



(参加者の集合写真)